

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
地域観光論 Area Tourism		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(観光ビジネス実務士必修科目)	全学生 観光フィールドの学生対象
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
観光ビジネス実務総論				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
国際観光論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
伊藤湯子	2階	水曜日・木曜日		授業中に指示します
授業の概要				
観光立国に向けた動きが活発化している現在、地域における観光産業の活性化を目指し、課題が検討されてきている。地域の現状を把握し、地域の特徴に合わせた観光振興のための施策を考えてみる。地域活性化は経済的、物理的な豊かさだけにとどまらず、人々が自ら住む地域に誇りと愛情を持ち、人との交流を通じて、郷土の素晴らしさを観光の視点で確認していく。				
授業の目標				
①社会構造の現状と変化を理解し、日本の将来像を述べるができるようにする。 ②各地域の社会動向を把握し、歴史、文化、習慣と観光資源の地域の現状を身近な事象として捉えられるようにする。 ③地域の誇れる伝統や街並みなどを観光振興に活かす方法を考えることができるようにする。				
授業の方法				
パワーポイントを活用し、地域の観光振興の事例を取り上げる。グループワークを通じて、受講者の学習を深める方法で進める。				
学習の成果（学習成果）				
①自分の住む地域の観光資源を発掘し、観光振興に活かす施策を考えることができる。 ②日本各地の新しいツーリズムの取り組みを説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	観光振興とは何か			
第2回目	新しいツーリズムへの取り組み			
第3回目	グリーンツーリズム 長野県飯山市・飯田市の事例			
第4回目	#REF!			
第5回目	伝統芸能を生かしたまちづくり			
第6回目	街並みの保全からみるまちづくり 岐阜県高山市の事例			

第7回目	イベントで街を盛り上げる方法 伊香保ハワイアンフェスティバルの事例	
第8回目	大道芸ワールドカップイン静岡の事例	
第9回目	ゆるキャラを活用したまちづくり ご当地キャラまつりイン彦根	
第10回目	スポーツを活かしたまちづくり 仙台の事例	
第11回目	B級ご当地グルメを活かしたまちづくり B1グランプリの事例	
第12回目	#REF!	
第13回目	オリンピックの経済効果	
第14回目	2020年東京オリンピックが観光にもたらすこと	
第15回目	新たなニューツーリズムを考える	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業に集中し、ノートをとっている。不明なことがあれば積極的に質問する。自分の意見を述べるなどが評価の対象となっている。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。
レポート	10%	地域観光についてのレポートの課題を期日内に提出する。S評価の基準：課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。S=90-100
調査報告書		
小テスト		
試験	40%	地域観光の理解度を図る。S評価の基準：S=90-100
発表内容（態度含む）	20%	地域観光について調べたことを発表する。S評価の基準：課題の本質と学習成果が十分にまとめられた発表となっている。S=90-100
その他		
教科書と参考図書		
プリントなどで対応		
履修上の留意点・ルール		
遅刻厳禁。私語は慎むこと。授業途中で無断で退出禁止。携帯電話の使用禁止。飲食厳禁。		